

## 1級合格者が挑む、沿線の魅力創出

京阪電気鉄道株式会社

課長 高木 昌之さん(1級合格)  
課長 高柳 淳一さん(1級合格)

**高木** 弊社では、沿線についての理解を深めるため、毎年多くの社員が京都検定に挑戦します。私が受験するきっかけは、当時その取りまとめ役で、受験しないわけにいかなかったこと。合格すると翌年は上位級を受けることになり1級に挑戦することになりました。

**高柳** 私は宣伝ポスターやCMを制作する部署におり、沿線を詳しく知ろうと思ったことがきっかけです。1級合格後は、「あの地域にはもつと興味深い神社があるからそちらを取り上げよう…」というように、知識を仕事に活かす機会も増えました。

そして、さらに深掘りしたいという思いから、1級合格者対象の京都産業大学日本文化研究所の特別客員研究員に応募し、昨年7月から1年間、三条大橋から京都の近世以降の歴史を考察しました。東海道の終点であった三条界隈は、洛外から訪れる人たちが集まって異文化が交流するゲートの役割を果たしていました。かつて京阪電車の終端駅でもあった三条のポテンシャルを再認識すること

で、地域活性化につながる新たな賑わい創出のヒントを得たいと思っています。

**高木** 大学が私たち1級合格者に研究の場を開放してくれることは大変ありがたいですね。私は、江戸時代に流行した「洛陽天満宮二十五社」巡りの風習を現代に甦らせることで、新たな観光ルートを提案したいと考えています。将来は大阪や神戸などから観光客を誘致し、京阪電車の利活用につながれば実益にもなりますしね。誰もが知る菅原道真は京都検定で

もお馴染みで、これまでに得た知識が研究に役立つことも多いです。

勉強を始めると地域の魅力に引き込まれます。京都以外にも興味を持ち、大阪や神戸、奈良をはじめ様々な地域検定に挑戦して合格しました。住む地域を知り、また周辺についてもお互いに知れば、各地が持つ魅力を広い視野で捉えることができます。関西が広域連携を進める上で、地域検定はその最高のツールになり得るのではないのでしょうか。



左から高木さんと高柳さん。お二人とも経営統括室課長として社内で敏腕を振るう傍ら、京都についての研究に励み、その成果は仕事にも活かされています。

## 京都産業大学 日本文化研究所 特別客員研究員制度



日本文化研究所特別客員研究員成果発表会で研究内容を発表する高木さん

京都検定1級合格者を対象に募集される制度で、京都産業大学の図書館や研究室などの施設利用、教員のアドバイスが1年間無料で受けられ、各自の興味に合わせて京都の研究ができます。

初めての京都検定1級試験となった平成17年の第2回検定試験の合格者を平成18年度特別客員研究員として受入れ以降、平成27年度までに160名が採用されました。特別客員研究員の研究成果は、研究成果発表会での発表のほか、京都産業大学の機関誌に掲載され、研究実績として残ります。またこの成果を活用し、「特別客員研究員」の肩書をもって各地で講演活動をされる講師の例もあります。

募集期間は毎年4月下旬から5月上旬頃で、過年度を含む1級合格者が対象です。1年間の期間終了後は「上席客員研究員」として登録することができ、引き続き図書館利用などができます。

第12回 京都・観光文化検定試験のご案内  
試験日 平成27年 12月13日(日)

お問合せ  
(土・日・祝日を除く9時~17時)

京都商工会議所  
京都検定事務センター

TEL 075-211-2010  
E-mail kyotokentei@kyo.or.jp

詳細はインターネットで検索

京都検定

検索